

但馬

命懸け氏子ら 水に漬かり



みこしを担ぎ川を渡る氏子たち＝養父市小城

までの約20分を往復する。途中、両神社の氏子らが行う練り合わせも見どころとして知られている。

この日は、午前9時前に養父神社を出発。重さ約150キロのみこしを担いだ男たちが「はっとう、よござるか」と力強い掛け声とともに周辺の各地を巡った。昼すぎには同市小川の河川敷に到着し、川の中へ。胸の辺りまで水に漬かりながら、何度も行きつ戻りつ、懸命に対岸に駆け上がる。見物客は大きな拍手で迎えた。

初めて担ぎ手を務めた北山琴一郎さん(25)＝同市小城＝は肩で息をしながら、開口一番「気持ちいい」と絶叫。「川の水は冷たかったが、気合で体が熱くなった。幼い頃からの念願がかなった」と喜んでいった。

14日は朝から齋神社で神事などがある。(桑名良典)

養父「お走り祭り」川渡御

南但の奇祭「お走り祭り」が13日、養父市の養父地域で始まった。初日最大の見せ場「川渡御」では、約200人の見物客が見守る中、雪解け水で冷たい大屋

川をみこしが威勢よく渡った。地元の保存会が伝承する祭りは2日間、みこしは養父神社(同市養父市場)から齋神社(同市長野)